

入学定員 (2024年度実績)

学部		
薬学科 150名		薬科学科 60名
大学院		
薬学専攻 (博士課程) 5名	薬科学専攻 (前期博士課程) 40名	薬科学専攻 (後期博士課程) 3名

在籍者数 (2024年4月1日現在)

学部	
薬学科 912名 男子323名 女子589名	薬科学科 280名 男子183名 女子97名
計 1,192名 男子506名 女子686名	
大学院	
—	薬学(博士) 42名 男子26名 女子16名
薬科学(修士) 93名 男子71名 女子22名	薬科学(博士) 25名 男子19名 女子6名



学部入学案内
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/>



大学院入学案内
<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/graduate/>

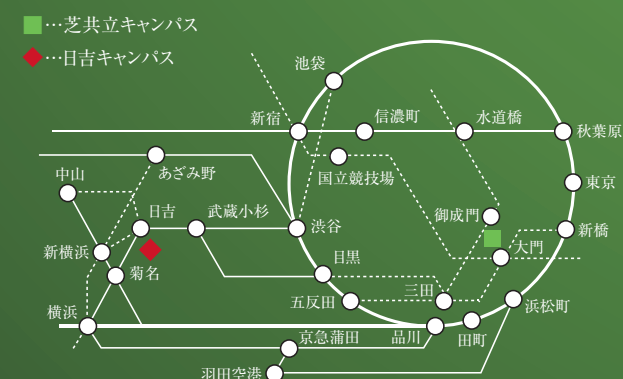
交通アクセス

■芝共立キャンパス

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
浜松町駅(JR山手線/JR京浜東北線) 徒歩10分
御成門駅(都営地下鉄三田線) 徒歩2分
大門駅(都営地下鉄浅草線/都営地下鉄大江戸線) 徒歩6分

◆日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
日吉駅(東急東横線、東急目黒線、東急新横浜線/
横浜市営地下鉄グリーンライン) 徒歩1分
※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。



慶應義塾大学 薬学部・薬学研究科

Faculty of Pharmacy
Graduate School of Pharmaceutical Sciences

Gates to the Future

総合大学の強みを活かし、新しい薬学を先導する。



慶應義塾大学

薬学部・薬学研究科

TEL 03-3434-6241 (代表)

薬学部・薬学研究科 公式ウェブサイト
<https://www.pha.keio.ac.jp/>



2024年5月発行



Keio University

2024

新しい薬学の先導者が、 ここから巣立ってゆきます。

未来医療の中核となる薬学について、学びます。

慶應義塾大学薬学部での学びの根底には、「実学(サイヤンス)の精神」、
自立した良識と信念を自ら育む「独立自尊」、
前人未踏に挑む「自我作古」といった福澤諭吉の精神が根づいています。
それは、薬学分野を先導できる薬剤師や研究者にとって欠かせない素養であると考えます。

薬学科

科学の確かな基盤と
医療人としての自覚を持ち、
高い臨床能力を発揮できる、
人に優しい薬剤師を育成します。

薬剤師の資格を持って活躍する6年制

薬剤師は厚生労働省が認定する国家資格ですが、2006
年以降、薬剤師の資格を取得するには6年制の大学薬学部
を卒業し、国家試験に合格する必要があります。薬学科は
6年制で、充実した専門教育・実務教育をはじめ、病院や薬
局において指導的な役割を担える薬剤師を育成する環境が
整っています。

国家試験の高い合格率と多様な進路

薬学科において、薬剤師資格取得に必要な国家試験の合
格率は常に高水準となっています。薬剤師の資格を取得し
た学生は主に医療・製薬関連業界に就職していますが、他
にも多様な進路があります。薬剤師としての知識をどう活か
して社会に貢献するかは、あなた次第です。

薬科学科

創薬、臨床開発、
環境・生命科学などの
幅広い分野において活躍できる
薬学研究者を育成します。

薬学研究者に必要な幅広い学びのための4年制

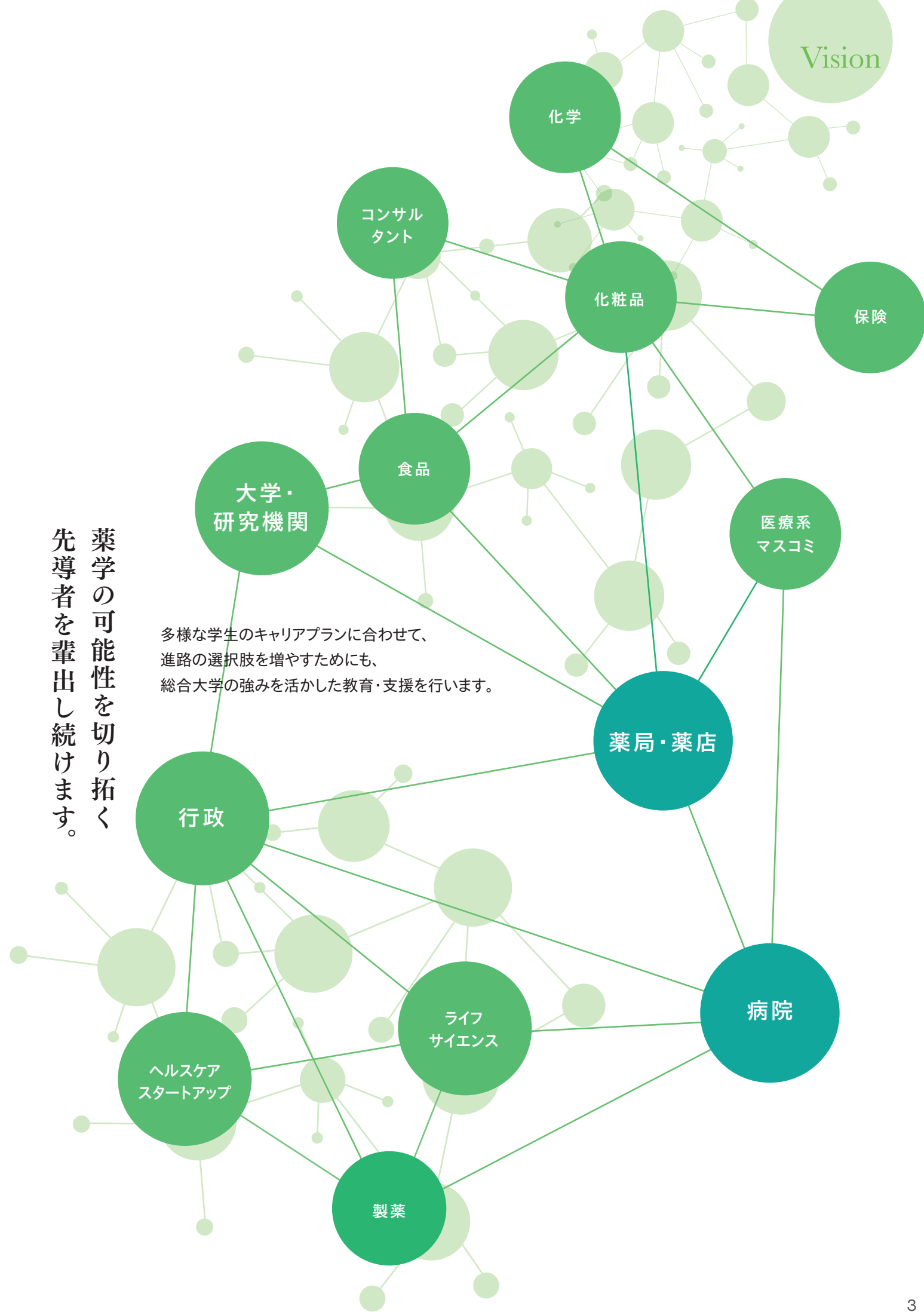
日本の薬学は明治時代に始まり、創薬をはじめとする高度
な生命科学への大きな貢献を続けてきました。薬科学科は
こうした伝統を継承し、創薬分野はもちろん、食品や化粧品、
他にも環境や衛生といった幅広い分野での研究・教育に貢
献できる人材を育成しています。

高い大学院進学率、より高度な研究へ

薬科学科の特徴として、修士課程(大学院)に8～9割の学
生が進学する、高い進学率が挙げられます。研究者としての
基盤を形成するには長期にわたる研究期間が不可欠です。
より高度な研究経験を積むことにより、医療・製薬関連業界
に限定されない幅広い進路が考えられます。

薬学の可能性を切り拓く
先導者を輩出し続けます。

多様な学生のキャリアプランに合わせて、
進路の選択肢を増やすためにも、
総合大学の強みを活かした教育・支援を行います。



進取確守の勇気を持った人材を育成し、 新しい**薬学**を先導していきます。

医療人、グローバルパーソン、サイエンティスト。
私たちの先導者育成には、3つの基準があります。

薬学科では、薬剤師の資格を活かしながら病院や薬局、
そして行政や製薬業界においても指導的役割を担える医療人を育成。
薬科学科では、製薬企業をはじめとする多分野の民間企業、
あるいは行政で指導力を発揮できるサイエンティストを育成します。
両学科で共通しているのは、語学を身につけ、国際的な視野を養うことで育まれる、
グローバルパーソンとして活躍するための素養です。



科学の基盤を持ち、
医療人としての自覚のもと、
高い臨床能力を発揮する薬剤師の育成

医療人

グローバルパーソン

自国単独では解決しがたい医療課題に対し、
国際的観点から取り組む
グローバルパーソンの育成



サイエンティスト

創薬、臨床開発、環境・生命科学などの
幅広い分野において、
高い専門性を備えた科学者の育成



History

慶應義塾大学 薬学部の歴史

慶應義塾大学薬学部は、単科の薬科大学として長年にわたり教育・研究を続けてきた
共立薬科大学との合併によって誕生し、伝統と革新が融合した歴史を歩んできました。

福澤諭吉、
蘭学塾を開く
慶應義塾の起源



医学科開設
初代学部長は
北里柴三郎



*福澤研究センター提供

日吉キャンパス
開設
現在、薬学部1年生が
通うキャンパス



1858

1917

1930

1934

1996

2006

2008

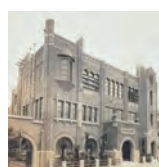
2011

2015

2024

共立女子薬学
専門学校設立

共立薬科大学の前身であ
る共立女子薬学専門学
校が東京・芝に開設される



共立薬科大学、
男女共学に

薬剤師教育
6年制の実施

医療連携の社会的な
ニーズが高まる中で
の教育制度改革

共立薬科大学
との合併

慶應義塾大学薬学部・薬学
研究科(芝共立キャンパス)開設



医療系三学部
合同教育スタート

医学部・看護医療学部・薬学
部の3つの学部が連携した
合同教育がはじまる



創薬研究センター開設

薬学部・薬学研究科の持つ機能
を結集し、慶應義塾内外と連携
することで、より高度な研究を可
能に



新カリキュラム導入

最新の情報・科学技術を活か
した問題解決能力を醸成する
新カリキュラムが始動



慶應薬学のすゝめ



薬学の最前線では、人間から病を遠ざける 先進研究が続いています。

薬学部では卒業研究時に全学生が
研究室(講座)に所属し、少人数ならではの
アットホームな雰囲気で、研究活動に取り組みます。
各研究室の紹介はこちら。



Research Topics



脂質の質に着目した
「リポクオリティ」を提唱。
新たな機能的、病気との関係性の
発見に挑んでいます。

現在の主な研究対象は、脂質、特に脂肪酸です。脂質といえば、摂り過ぎはよくないなどと一般的に量が問題になっていました。確かに量が多すぎるのは問題ですが、質やバランスも大事だと私たちは考え、「リポクオリティ」という概念を提唱しています。質量分析という高度な技術により脂質には数万の多様性があることがわかりました。それぞれの脂質の機能的、健康や病気との関係性を突き止めるのが私たちの挑戦です。基礎研究とは発見であり「0から1を生み出す」ことです。それは、昔の偉人さえ知らなかったこと。初めはただの原石でも、多くの人が研究を重ね、磨きあげることで医薬品になるかもしれない。私たちは、そういう研究をしています。

薬学部長
代謝生理化学講座 教授
有田 誠



抗がん剤ではない既存薬が、
がん細胞を抑制する効果を発見。
治療薬開発への新しい道を
拓く研究です。

今までとは異なるアプローチから、難治性がんの治療薬を発見する研究に取り組んでいます。薬の開発にはまず、がん細胞を培養する環境が必要です。私たちは、既存の平面(2次元)ではなく、ゲルを使った3次元のオルガノイド培養技術により、生体に近い環境で実験を行いました。さらに、抗がん剤ではない既存薬に着目し、約1500種類の薬をがん細胞に投与した結果、ある水虫の治療薬にがん細胞の増殖を抑える効果があることがわかりました。既存薬を使うメリットは、安全性が確認されているため、開発費や開発期間を大幅に削減できることです。薬学は社会貢献性が高い学問であり、一粒の薬には人類の英知が詰まっています。非常にやりがいのある研究だと思います。

薬物治療学講座 教授
齋藤 義正

医薬品情報学とは、「育薬」の学問です。医薬品は世に出ても完成品とは見えず、育てる必要があると考えます。育薬の栄養は、情報です。「患者さんはどう使ったか」といった市販後の情報を収集し、解析・評価します。そして、得られた新情報を「より安全で正しい医薬品使用」に役立てます。また、新情報は創業のための重要なフィードバックとなります。医薬品情報学を志したきっかけは、薬剤師として働いていた頃、現場に埋もれた多くの知見が活かされず、「もったいない」と感じたことです。現在は、AIを活用した最先端の情報解析など、他の理工系分野の方と連携して研究するために必要なプラットフォームづくりに注力しています。

医薬品情報学講座 教授
堀 里子

AI活用など、
先進の情報解析環境を構築。
新たな情報が、
医薬品を育てる栄養になります。



がん治療は大きく進歩しましたが、それでも治療が効かずがんが大きくなってしまうことがあります。一方、免疫は多くの要素が緻密に作用し合っている奥深い世界。私たちは、免疫機構ががん細胞を強力に攻撃し得る可能性に新たな光を見出し、難治性がんに対抗する免疫治療法の開発を目指しています。例えば、ヒトのリンパ球にがん細胞を強力に攻撃するための遺伝子を導入したり、逆にがん細胞が免疫細胞に認識され易くなる薬を植物由来の化合物の中から見出しています。医学部とも協力しながら、治療法がなくて困っている患者さんのもとに新たな薬を届けたいという情熱を持って研究を行っています。

病態生理学講座 教授
松下 麻衣子

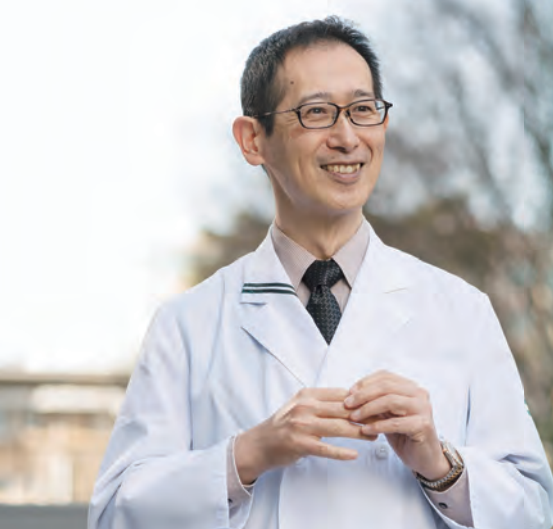
免疫の持っている可能性に
新たな光を見出し、
難治性がんに対抗する
治療薬の開発に挑んでいます。



今、注目を浴びている免疫系の研究。
「新世代の医薬」への
期待がかかっています。

腸の中には多くの細菌が存在しますが、この腸内細菌に異常があると、免疫系に影響を及ぼし、それによっていろいろな疾患が起きることがわかっています。肥満は脂肪組織の軽い炎症が、アルツハイマー病は脳内の炎症が、それぞれ症状悪化の一因となっていて、炎症は免疫の暴走によって起こります。現在、免疫は医学、薬学にとって非常に重要な研究対象となっています。最先端の医療分野では今、抗体医薬の研究が進んでいます。免疫の力を利用する抗体を使い、病気の原因であるタンパク質を抑制したり、不要な細胞を除去したりするわけです。こうした最先端の研究を「共創」できる次代の研究者を育成することも、慶應義塾大学薬学部の使命です。

生化学講座 教授
長谷 耕二



医薬連携の試みは、
薬学部と医学部が情報交換し、
実践的教育をつくる足がかりです。

現在の研究テーマは「市販後の薬の有効性・安全性」です。薬は効き方や副作用に個人差がありますが、その原因は十分には解明されていません。私たちは、個人差の原因を「薬が体内でどう動くか」という薬物動態学で解明します。そして、個人差に関するデータを「薬をどう使うべきか」という目的に合わせて噛み砕き、医療現場で活きる医薬品情報として活かします。また、私が担当する「臨床薬学講座」は医学部との医薬連携の一環です。芝共立キャンパスにある薬学部は、医学部や大学病院との物理的な距離がありますが、この医薬連携の試みは、薬学部と医学部がお互いに情報交換しながら実践的な教育をつくり上げる足がかりとなります。

慶應義塾大学病院 薬剤部長
薬学部 臨床薬学講座 教授
医学部 病院薬剤学教室 教授
大谷 寿一



薬学部は、進路に応じて選べる2学科制です。

薬学科

高度な知識・技能と倫理観を持つ薬剤師を育成

薬学科では、薬剤の適正使用のために必要な知識、医療人としての倫理観、薬学の進歩に追従できる科学的基盤を身につけ、患者さんを最優先にしたチーム医療で重要な役割を担う薬剤師を育成します。長期間の課題(卒業)研究を通じて、問題解決能力も磨きます。

薬学科

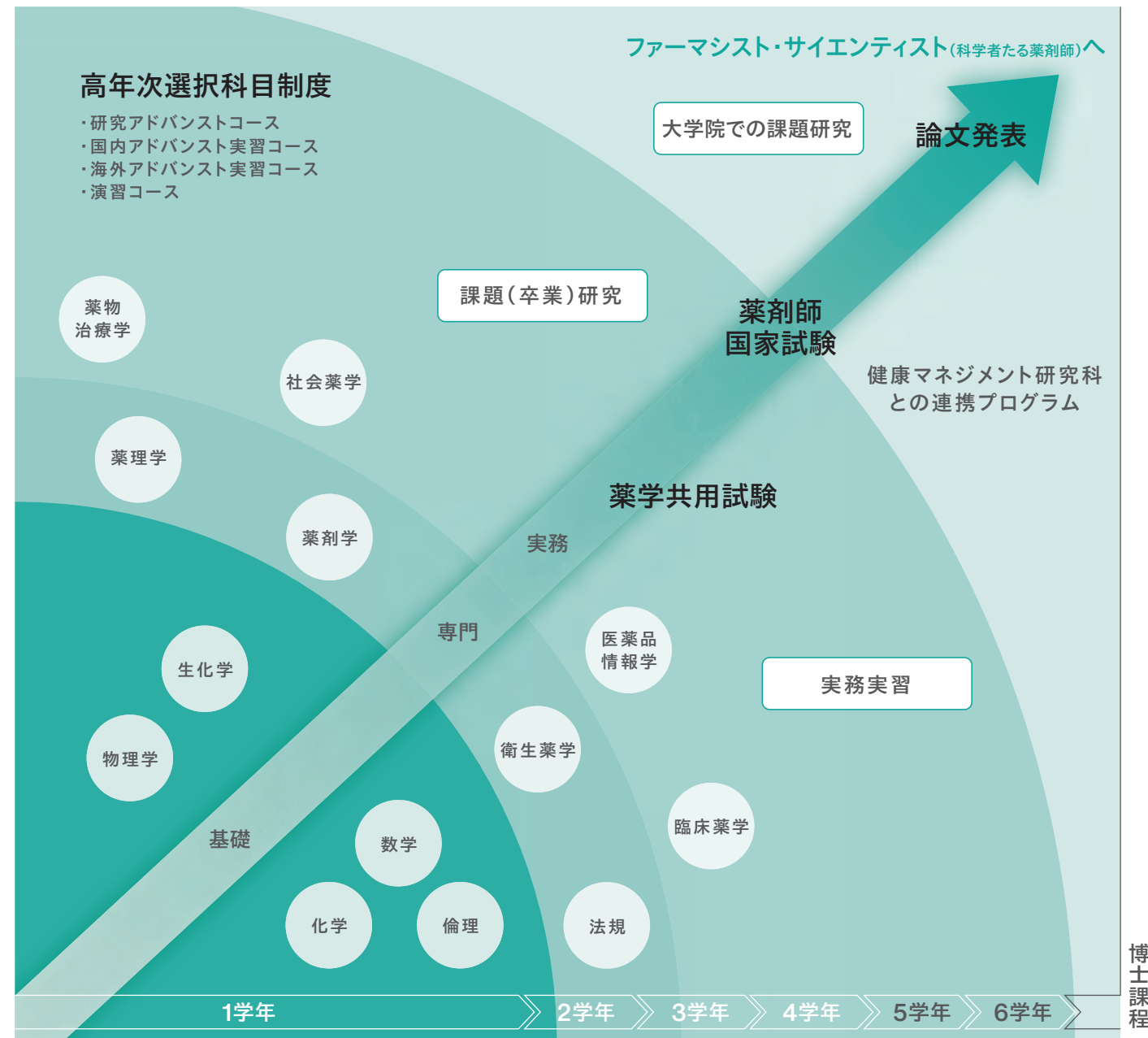


●薬学共用試験とは

薬剤師資格を持たない薬学生が実務実習へ臨む前に「実習生の質的保証をする」ために受験する全国の大学で統一された試験のことです。OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)、CBT(Computer-Based Testing)があり、2つの試験に合格して初めて実務実習へ臨むことができます。

●実務実習とは

実務実習は、4年次の終わりから5年次にかけて大学外の薬局と病院で行われる計22週間の臨床実習のことで、薬学科の6年制教育の中でも極めて重要な科目です。各医療施設の実務実習指導薬剤師の指導のもと、実際の患者さんに対する薬物治療や医療安全の実践、地域・公衆衛生への貢献を体験し、薬の専門家としての知識・技能・態度を修得していきます。



博士課程

薬科学科

広く薬学に関わる研究領域の人材を育成

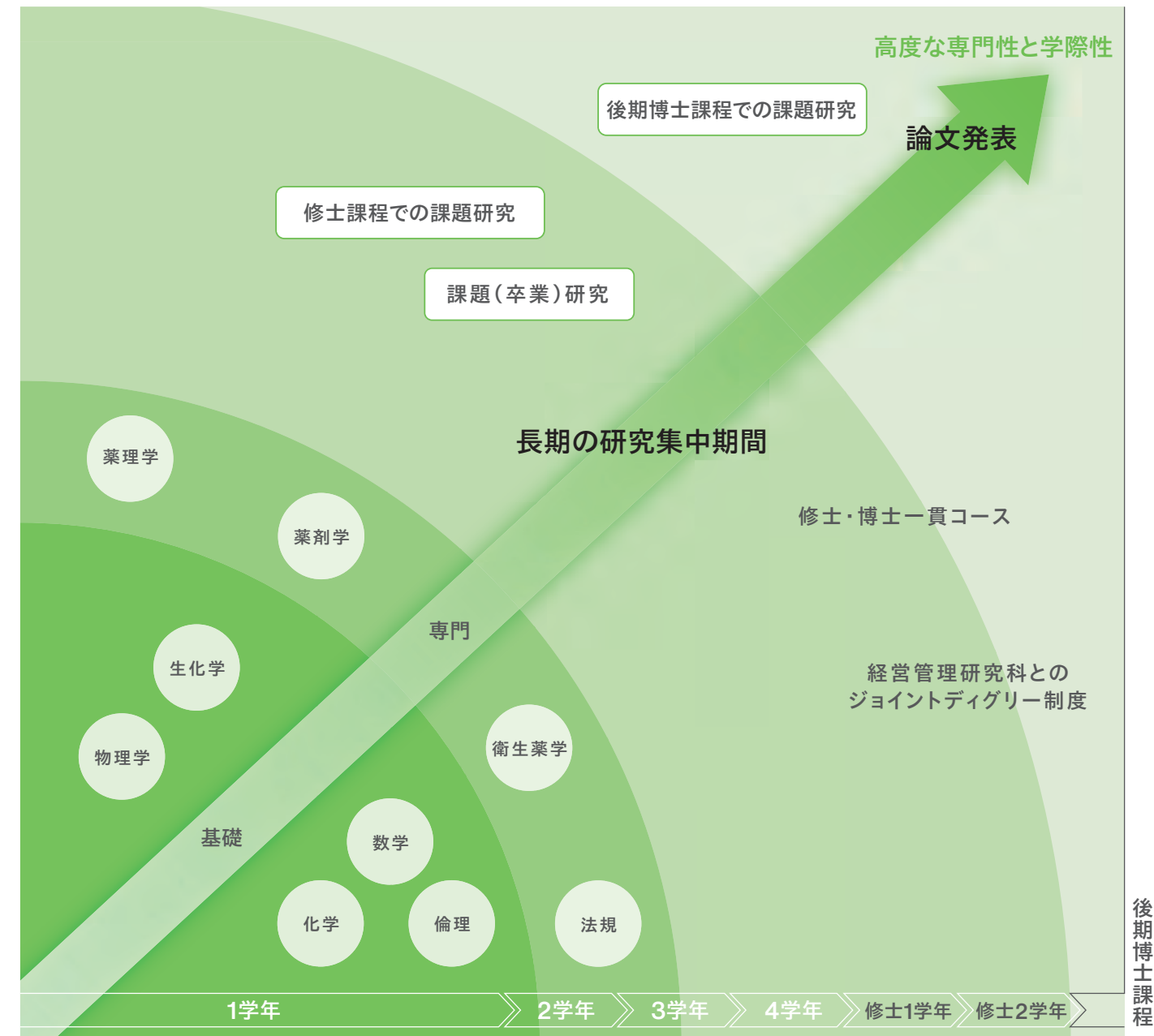
薬科学科は、薬学の基盤を持った科学者を育成します。自然科学に関する広い素養と、薬学としての応用性を共に学ぶことで、高度な専門性と学際性を共に確立することを目指します。3年次の秋から研究室での卒業研究を開始することで、長期にわたって研究活動に専念し、研究者としての問題発見・解決能力を実践的に磨きます。

薬科学科



●課題(卒業)研究とは

本学薬学部では、全ての学生が科学者としての基盤を持つことを重視しています。学部での課題研究期間は約1年半に及び、新たな創造を目指し、指導教員と共に研究課題の解決に取り組みます。学部内に約20ある研究室・センターだけでなく、医学部や理化学研究所などの研究機関とも連携を深め、慶應義塾内外の幅広い選択肢の中から研究活動の場を選択することも強みです。薬科学科の学生は大部分が大学院に進学するため、さらに長い時間と労力を費やして、研究者としての能力を磨きます。学部・大学院生の国際学会発表を支援する制度も学部独自に設け、その発表が優れた研究として認められ、受賞して帰国する例も増えています。



後期博士課程

大学院 薬学研究科では、 創薬、生命科学、臨床薬学の プロフェッショナルを育成します。

幅広い研究領域にふれることができる
充実の研究指導体制



大学院 薬学研究科の研究指導体制は、自ら良識と信念を持ち他者も尊重する「独立自尊」、
学びつつ教え、教えつつ学ぶ「半学半教」の慶應義塾の精神に基づいています。
学生は随時、自ら属する研究室(講座)あるいは他講座の教員や学生とディスカッションを繰り返し、
幅広い領域にふれながら研究を進める体制となっています。

修士学位と博士学位を最短4年間で取得できる2つのプログラム

修士-博士 一貫コース (薬科学専攻)

優秀な学生の博士学位取得を推進し、薬科学分野を先導できる卓越した研究者
を育成することを目的に、最短4年間で修士学位と博士学位を取得できる「修士-
博士 一貫コース」を2021年4月より設置しています。審査基準を満たした学生は、
修士課程(2年制)の在学期間を1年短縮して修士学位を取得後、後期博士課程
(3年制)に進学することが可能です。そのため、学部入学から8年間で博士学位
を取得できます。

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目	9 年目
薬学部薬科学科				修士課程		後期博士課程		
通常コース								
B1	B2	B3	B4	M1	M2	D1	D2	D3
修士－博士一貫コース								
B1	B2	B3	B4	M1	D1	D2	D3	
修士科目単位の一部を先取り履修				修士科目単位の一部を残りを履修				

健康マネジメント研究科との連携プログラム (薬学科卒業生対象)

薬学研究科薬学専攻では、健康マネジメント研究科と連携し、臨床研究の基礎と実践
を学ぶことが可能な連携プログラムを設置しています。本学の薬学科6年卒業生はこ
の連携プログラムを通じて、修士(公衆衛生学)および博士(薬科学)の2つの学位を
4年間で取得可能です。

医学研究科と連携した 研究臨床体験プログラム

薬学研究科は、人材養成を高度化するための新たな教育プログラムの開発に、医
学研究科とともに取り組んできました。医学研究科の教員や学生との交流を通じ
て、臨床の視点など、学際的な視野を持つ人材の養成を目指しています。



研究奨励資金

佐藤製薬株式会社のご厚志により、大学院生が国内外の学会発表を行う際の経費を補助いただいています。
この資金で、多くの大学院生が世界に羽ばたいています。

研究奨励資金の
詳細はこちら



Students' Voice 在学生の声

出会いと学びが多いほど 自分の視野は広がる

先天性疾患を持つ私にとって、薬は身近な
存在。自然と将来は薬に関わる仕事をした
いと思うようになりました。総合大学であ
る慶應薬学部を選んだのは、他学部のいろ
いろな考えを持つ学生達と交流できると考
えたからです。その願いは、芝共薬祭実行
委員会とボウリングクラブという2つの課外
活動に参加することで大いに叶っています。
勉強、課外活動、アルバイトにも精を出す
日々で、忙しく過ごしています。出会いも学
びも多い大学生活は、自分の視野を広げて
くれています。



薬学部 薬学科3年
山口 勇大

製薬の過程に携わる 自分の夢を叶えたい

アレルギーで苦しんでいた家族を助けたい
という思いから、小中学生の頃には既に薬を
作る仕事に携わりたいと考えていました。大
学の免疫学の授業で知った免疫の緻密なメ
カニズムに驚き、一方で医療の学びを深め
るにつれてがんに特化した研究がしたいと
思うようになり、病態生理学講座で免疫の
観点から新しいがん治療法の探索に取り組
んでいます。小中高と慣れ親しんでいる音楽
も、軽音サークルでのヴォーカルとして楽し
んで活動しています。自分を磨く環境を活か
して、小さい頃からの夢を叶えたいです。



薬学部 薬学科4年
川嶋 菜々

研究を続けるうちに 社会への貢献性を実感

眼には免疫バリア機能があり、抗体や抗菌
物質を含む涙が、粘膜に付着した異物を
洗い流してくれます。しかし、この機能に関
与するTALT(リンパ組織)の研究は、あまり
進んでいませんでした。私たちは、マウスの
TALTを分離することに成功し、免疫応答
の誘導に重要なM細胞の存在を決定づけ
ることができました。研究は好きで始めた
ことですが、続けるうちに社会貢献性を実感
しています。また、「修士-博士 一貫コース」
に所属し、早い時期から本格的な研究に着
手できたことは自信になりました。



薬学研究科 後期博士課程3年
大谷 祐貴

「研究は楽しい」と実感 それが今の自分の原動力

私は現在、薬物動態の研究に取り組んでい
ます。具体的には、薬物代謝の際に関わる
酵素の働きに着目し、その働きを阻害する
成分を果汁の中から見つけ出そうというも
のです。薬と一緒に飲んではいけないこと
でよく知られているのはグレープフルーツジ
ュースですが、私たちは、それ以外にも薬の成分
と相互作用を引き起こして代謝を阻害する
果汁があると考え、調査を続けています。薬
学部生の頃にも薬物消失の際の代謝酵素
について論文を発表し「研究は楽しい」と思
え、その実感が今の研究の原動力になっ
ています。



薬学研究科 博士課程4年
肥沼 佳菜

薬学の先導者育成のために、 充実した環境を整えています。

医療人育成のために

医薬共同運営講座が担う大学病院との連携と ファーマシスト・サイエンティスト（科学者たる薬剤師） の育成

薬学部の実践教育においては、病院や医学部との連携も重要です。そこで慶應義塾は2021年に、医学部と薬学部の共同運営講座「病院薬剤学教室」を医学部（信濃町キャンパス）に設立しました。同教室の設立後、主任教授として薬学部の大谷 壽一教授が移籍・着任するとともに、慶應義塾大学病院薬剤部長を兼任し、医学部・薬学部・病院間の連携がさらに強くなりました。また、これからの薬剤師は、医療における問題点を発見して解決する能力が求められますが、これは、薬剤師に科学者としての素養が求められることを意味しています。とくに、病院薬剤学教室が扱う薬物動態学は、他の学部にはない専門領域です。病院薬剤学教室と病院薬剤部は、薬物動態学などを核として、それぞれがファーマシスト・サイエンティストの養成と実践の場として、薬学部とも連携しながら慶應の臨床薬学を推進しています。



患者さんを中心に考え、グループ医療を実践する 医療系三学部合同教育

慶應義塾大学の医学部、看護医療学部、薬学部（薬学科）では、チーム医療に貢献できる人材を早期育成するために三学部合同教育を実施しています。「グループアプローチによる患者さん中心の医療実践」というテーマを掲げ、学年ごとに共通したテーマによるグループディスカッションを行い、互いの立場を尊重しながら交流を深めていきます。患者さんを中心に考えた、質の高い医療を提供するためには、専門職同士がどう連携すればいいのか。そのことを実践的に学ぶプログラムです。



グローバルパーソン育成のために

多彩な国際化教育プログラム

薬学部は、海外で実習や研修を行う教育プログラムが充実しています。

これらのプログラムにより、将来、グローバルな舞台で活躍するために必要な広い視野を養うことができます。

※プログラムに参加するためには、成績、英語力、面接などによる選抜に合格する必要があります。

プログラムに参加した
学生の声を紹介



海外アドバンスト実習／海外臨床特別研修

薬学科6年生と大学院生（薬学）を対象とし、海外の協定校関連病院で4～5週間の臨床実習を行います。臨床薬学や医療人としての態度、海外の医療システムや文化の違いなどを事前教育・事後学修も含めた一連のカリキュラムで学び、国際的視野を持った医療人として先導的に活躍するために必要な知識・技能・態度を修得します。



アドバンストレギュラトリーサイエンス海外演習／ 海外レギュラトリーサイエンス特別研修

国際的な医薬品開発およびレギュラトリーサイエンスの素養と視野を有する先導的な人材を育成するための、欧米での現地研修を主体とした約10日間の海外研修です。薬学科6年生と大学院生が対象です。事前学習において調査テーマを設定した上で、政府機関や大学、製薬会社を訪問します。



サイエンティスト育成のために

脂質研究から生命秩序を解き明かす

JST ERATO「リビドームアトラス」プロジェクト

JST ERATOは独創的な基礎研究から我が国の科学技術イノベーションの創出に貢献することを目的とした研究推進プログラムです。2021年度より薬学部内にヘッドクォーターを構えた大型プロジェクト「リビドームアトラス」が発足しました。研究総括は、有田 誠教授が務めています。



リビドームアトラスの
詳細はこちら



慶應薬学の研究成果を広く社会に還元 創薬研究センター

慶應義塾内外の関連研究機関等と協力しながら、創薬研究の成果を広く社会に還元し、健康長寿社会の発展に寄与するとともに、創薬分野における優れた国際的人材を育成します。「研究プロジェクトの設置」「知的財産権の取得・技術移転促進」「学生の研究活動支援」等を行っており、学生たちも日々研究に励んでいます。

研究プロジェクト一覧

- 創薬メタボローム研究プロジェクト (iMeC)
プロジェクトリーダー 有田 誠 教授
- プレシジョン・メディシン分子診断プロジェクト (PreMo)
プロジェクトリーダー 花岡 健二郎 教授
- 抗体免疫先進研究プロジェクト (Primab)
プロジェクトリーダー 長谷 耕二 教授

創薬研究センターの
詳細はこちら



漢方薬や民間薬に用いられる植物を知るための 薬用植物園

浦和共立キャンパスにある薬用植物園は、約3500平方メートルの敷地内に、漢方薬に用いられる生薬の基原植物や民間薬に用いられる薬用植物、他にも有毒植物など800種類ほどの植物が植栽されています。本薬用植物園は、薬学部学生に対する生薬学講義の薬用植物観察実習や、漢方薬・生薬認定薬剤師制度における薬用植物園実習など教育の場として、また天然物創薬研究のための研究材料を供給する場として幅広く活用されています。



ラオス・プライマリヘルスケア保健医療チーム 活動プロジェクト

薬学部生が医学部・看護医療学部の学部生と合同で、ラオス国のヘルスケアの現状と課題を学び、チーム医療の観点から、公衆衛生に対する効果的なアプローチを考えます。薬学部両学科の学生を対象としたプログラムで、3学部から約20名が参加します。事前の研修の後、実際にラオス国を訪問し、国際機関の見学や現地医療機関で臨床実習も行います。農村でのフィールドワークや小学校での健康教育も実施し、プライマリヘルスケア支援活動の実践力を育みます。



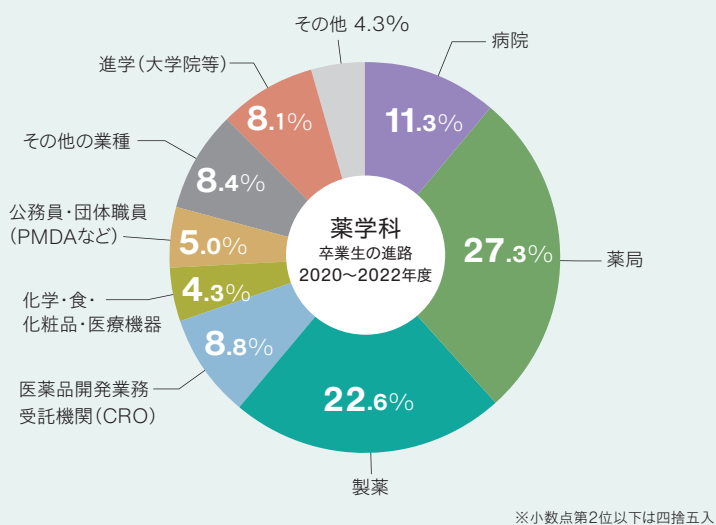
Thai Pharmacy Experience

タイ王国における医療や薬学教育について学び、国際性豊かな視野を持った薬剤師・薬学研究者として活躍する素地を育成することを目指します。学部2、3年生を対象とし、定員は約20名です。協定校であるタイ・コンケン大学を訪問し、タイの伝統医療（写真）を学び、薬剤師や学生との交流を深めます。履修者は、コンケン大学から来日する学生のホスト役も務めます。

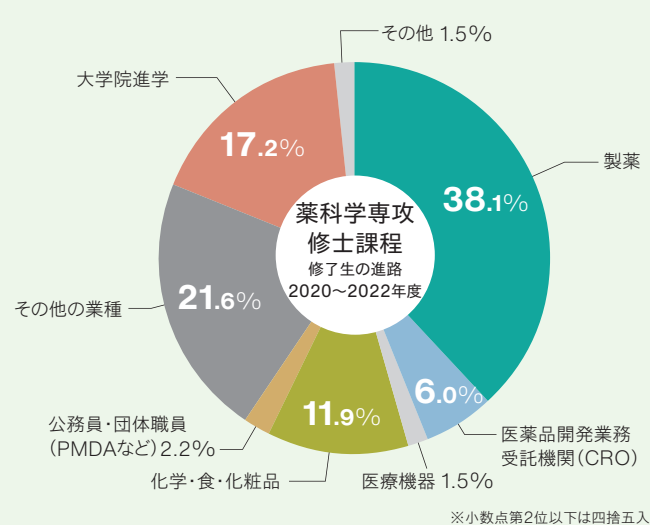


あなたがイメージするよりも 多様な進路が広がっています。

薬学科卒業生の進路



薬科学専攻修士課程修了生の進路



最新の進路情報はこちら



早期から手厚く、継続的に行われる 就職サポート

本学の就職・進路委員会は、早いうちから学生の皆さんの将来を見すえたサポートを継続的に行っています。2年次からは新学期に就職ガイダンスを実施し、就職支援企業の講師から就職にあたっての戦略や心構え、スケジュールやエントリーに関するノウハウなどを学びます。また、病院・薬局・企業・官公庁より招聘した講師による講演会、薬学部・薬学研究科卒業生との懇談会など、薬学部独自の就職支援イベントを多数開催しています。

卒業後も強いつながり、 OBOGによる進路指導もある KP会(KP三田会)

KP会は、慶應・共立のKとPharmacy(薬学)のPからなる、旧共立薬科大学卒業生と慶應義塾大学薬学部卒業生で組織する同窓会の名称です。その活動は、人物・成績ともに優秀だが経済的に修学困難な学生に対する奨学金給付、薬学に関する研究への助成金支給や奨励賞授与、各種研修会の開催などです。卒業すると全員KP会会員となり、KP会会員の卒業生達が、本学部学生に対して進路アドバイスをを行うことも多くあります。卒業後も、薬学に携わる者同士で強いつながりを持つことができる会です。

KP会の詳細はこちら



Message

幅広い分野で国民の 「生きる」を支える

私は厚生労働省で薬系技官として働いています。薬系技官は、大学で学んだ薬学・化学等の知識も生かしながら、国民の健康保持・増進や安全な医療を届けるための仕組みづくりをしています。その活躍分野は広く、薬事行政分野だけではなく研究開発の振興、食品の安全など幅広い分野にわたっています。私は前部署では医薬品の承認審査に関わる業務に従事し、COVID-19に対するワクチン・治療薬の承認審査に関わりました。入省してすぐに大きな仕事に携わり貴重な経験をすることができました。ぜひ一緒に国民の「生きる」を支えるために取り組んでみませんか。

培った薬学の知識および 自律心が社会で活きる

病気を抱える患者さんと、その周りの人々の生活を豊かにしたいという思いで、6年制の薬学部に進学。講義に加え、多くの実習が組み込まれたカリキュラムを通して、自身が特に興味を感じることが何か、じっくり模索できました。加えて、卒業研究のために所属した研究室(講座)では、自律することが重んじられたため、自身で考え抜き主体的に行動する力を体得できたと感じています。現在、私は製薬会社の開発職に就き、新規モダリティの医薬品開発に携わっています。大学で培った薬学の知識は勿論、研究室生活で得た自律心は、製薬会社で働く上での基盤となっています。



薬学科 2021年卒業

高野 峻輔

厚生労働省
医薬産業振興・医療情報企画課
医薬品産業・ベンチャー等支援政策室



薬学科 2019年卒業

中村 蘭子

アステラス製薬株式会社
早期臨床開発
クリニカルオペレーションズ

薬学科

薬剤師国家試験の高い合格率、 多様に広がるキャリアパス

本学の薬剤師国家試験合格率は常に高水準ですが、合格や資格取得をゴールとせず、ひとつの通過点として考え、視野を広く持って自分の将来を見えることが大切です。実際、本学における卒業生の進路は多様です。あなたは、薬剤師としてどのように社会に貢献していくのか。そういったビジョンを描き、自発的に行動できる人材が社会に強く求められています。

薬科学科

「大学院」は研究者への未来を拓く重要な一歩

薬科学科の特徴は、卒業生の多くが大学院に進学することです。大学院進学率は8~9割で、特に優秀な学生のために最長4年間で修士と博士の学位を取得できる「修士-博士一貫コース」も用意しています。学部卒業後すぐに就職する選択肢ももちろんありますが、研究機関や企業の研究者を目指す学生にとって、大学院への進学は将来への重要な一歩となります。大学院修士課程修了者は、医薬の専門知識と高度な研究経験を生かし、製薬企業はもちろん食品・化粧品メーカーや行政機関等、幅広く活躍しています。

修士課程での経験が、 企業研究者としての基盤に

製剤・DDS、化粧品研究への興味から薬科学専攻修士課程への進学を決めました。私が所属した研究室(講座)では、機能性ポリマーを主軸に幅広い分野の研究に適用しており、研究を通じて柔軟な思考力、現象に対する理解力を養いました。さらに、教員との議論や国内・国際学会への参加を通じて、コミュニケーション能力を身につけることができたため、修士での研究生生活は企業の研究者になる重要な基盤であったと考えます。現在は世界中の人に喜んでもらえるような化粧品の開発を目指し、その根幹となる技術開発に取り組んでいます。

未来の医療を実現させたい 一多分野を統括できる 研究者を目指して一

皆さんは、100年後の医療はどのようになっていると思いますか?現在、"不治の病"と言われる病気が完治できる世界が訪れているのではないのでしょうか。研究者の使命とは、そのような未来をいち早く実現することだと考え、薬科学科へ進学しました。大学時代は、総合大学の強みを活かし、多分野の研究にも触れることができました。その後は博士課程、ドイツ留学を経て有機化学を中心に学んだ後、現在は創薬化学研究に日々励んでいます。未来の医療を実現させるため、分野や国籍を超えた統括的な研究者を目指しています。



薬科学専攻 修士課程 2018年修了

大島 麻理子

日本ロレアル株式会社
リサーチ&イノベーション
先端研究所



薬科学専攻 後期博士課程 2017年修了

山下 泰信

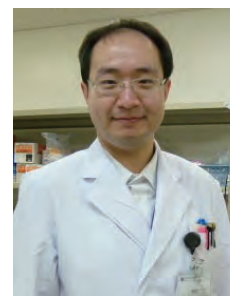
大阪大学産薬科学研究所
複合分子化学分野 助教

誰からも信頼される 病院薬剤師を目指して

私は大学院では基礎研究をしていましたが、臨床にも携わりたいと考えていたため病院薬剤師を希望しました。現在は小児科病棟で小児患者さんの薬物治療に携わりながら、臨床経験を積んでいます。また、入職後1年間のローテーションで見つけた研究課題に取り組み、学会発表や論文発表に向けて研究活動にも励んでいます。今後も大学院時代に身につけた思考力や研究マインドを生かして、日常業務から生まれるクリニカルクエストを研究につなげ、患者さんに対する医療の質の向上に貢献できるように精進したいと考えています。

非臨床と臨床の架橋となる 自分の役割を果たしたい

私は中国の医学部を卒業後、日本の大学で知識と研究能力を深めることを目的とし、日本への留学を決意しました。しかし、実際に来日してみると、自らの手で患者に薬を届ける仕事に魅力を感じ、大学院では薬学を選択。博士課程では薬物動態学と薬力学を中心に、臨床研究の基盤となるエビデンスの構築に取り組みました。就職先は、自身の専門知識を最大限に活かせると考え、基礎的研究の成果と臨床との架橋となる薬物動態研究所へ。現在は最新の質量分析技術を活用し、多様化・複雑化が進むあらゆる医薬品の生体内挙動を迅速に解き明かすことができるエキスパートを目指しています。



薬学専攻 博士課程 2021年修了

関 博行

筑波大学附属病院
薬剤部



薬学専攻 博士課程 2023年修了

劉 小茜

武田薬品工業株式会社
リサーチ・プレクリニカル&
トランスレーショナルサイエンス
薬物動態研究所